

右側下顎第二大臼歯の埋伏例

人見昌明, 内田啓一, 和田ゆかり, 長内 剛
和田卓郎

松本歯科大学 歯科放射線学講座 (主任 和田卓郎 教授)

深澤常克, 児玉健三

松本歯科大学病院 歯科放射線科 (科長 和田卓郎 教授)

永久歯群において埋伏歯としての好発するのは下顎第三大臼歯や上顎犬歯などであるが, 下顎第一, 第二大臼歯が埋伏することは極めて稀とされている¹⁾. 本邦においてもいくつかの報告があるが^{2~5)}, 下顎第二大臼歯は上下顎第一大臼歯や上顎第二大臼歯などとともに最も埋伏しにくい歯とされている.

今回, 我々は頬舌の方向に埋伏した右側下顎第二大臼歯を経験したので, 写真を供覧する.

患者は18歳女性で右側下顎大臼歯部に異和感を認めたため当科にて, デンタルX線検査, パノラマX線検査を行なった.

写真1にパノラマX線写真, デンタルX線写真を

を示す. 上下顎第三大臼歯が4歯とも完全埋伏しているのがみられる. 右側下顎第三大臼歯は歯冠側を近心方向に向け水平埋伏し, 右側下顎第二大臼歯は歯冠を頬舌方向に向け, やや遠心傾斜し半埋伏していると思われる所見が認められた. また, デンタルX線写真において埋伏している2歯の周囲は, 炎症を思わせる一層の透過像が認められる. そして, 右側下顎第一大臼歯遠心歯頸部に齶蝕と思われる所見が認められる. なお, 埋伏に伴う歯列不正などの所見は認められない. さらに, 頬舌的位置関係を確認するために咬合法撮影を行なった.

写真2に咬合法X線写真を示す. 右側下顎第三

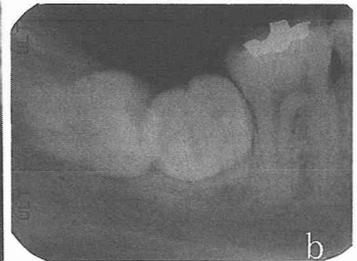
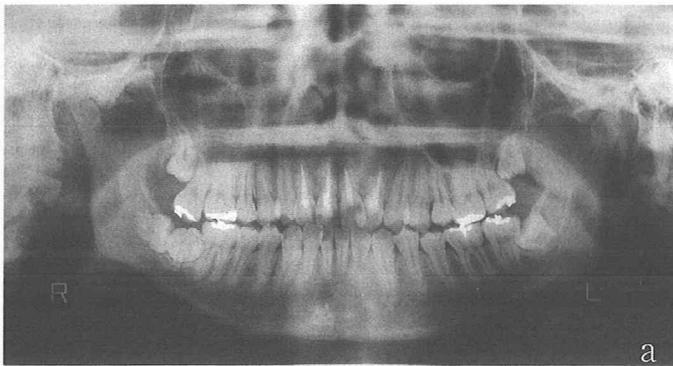


写真1

- a: 左右側上顎第三大臼歯完全埋伏と左右側下顎第三大臼歯の水平埋伏, 及び右側第二大臼歯が歯冠を頬舌方向に半埋伏していると思われる所見が認められる.
b: 右側下顎第三大臼歯の水平埋伏と第二大臼歯が歯冠を頬舌方向に半埋伏している所見が認められる.



写真 2 : 右側下顎第三大臼歯の水平埋伏と第二大臼歯が歯冠を舌側に向けて埋伏しているのが認められる。なお、第二大臼歯相当部に皮質骨の肥厚(頬側)および菲薄(舌側)が認められる。

大臼歯は水平埋伏し、第二大臼歯では歯冠側を舌側に向けて埋伏しているのが認められる。また、第二大臼歯相当部頬側には、この頬舌の埋伏が原因と思われる皮質骨の肥厚ないし膨隆が認められる。一方、舌側の皮質骨では菲薄化ないし消失が認められる。

埋伏歯について文献的考察を行なった結果、埋伏歯2757の中、第二大臼歯は0との報告もある

が⁶⁾、増田ら⁴⁾による埋伏歯724の歯種別の頻度は、上顎切歯88、側切歯31、犬歯267、第一小臼歯11、第二小臼歯48、第一大臼歯4、第二大臼歯5、第三大臼歯24、過剰歯19、下顎切歯5、側切歯7、犬歯31、第一小臼歯22、第二小臼歯100、第一大臼歯4、第二大臼歯8、第三大臼歯48、過剰歯5、であった。しかし第三大臼歯と過剰歯については未観察者が多いため、他の歯種との頻度は比較できないという。

今回、パノラマX線写真、デンタルX線写真にて右側下顎第二大臼歯の歯冠は、一見頬側へ向いているように観察されたが、咬合法X線写真によって、頬舌的位置関係を知ることができ、歯冠は、舌側へ向いていることが確認された。また、このような埋伏歯の症例が見られた場合、萌出方向のみならず皮質骨の変化をみるためにも咬合法X線撮影を行なうことが望ましいと考えられる。

文 献

- 1) Luniatschek, F. (1906) Ursachen und Foramen der Zahnretention. Dent. Monatscher. Zahnhe. 24 : 365.
- 2) 長尾喜景 (1942) 希有なる下顎第二大臼歯の水平位埋伏. 歯科学報, 47 : 458.
- 3) 瓜田否四郎 (1952) 逆生した下顎第二大臼歯埋伏症の1例について. 歯科学報, 52 : 112.
- 4) 増田 屯, 三好作一郎, 柴田昌治, 藤原 定, 出口和邦 (1971) 第二・第三大臼歯の水平埋伏例と乳臼歯の埋伏. 口科誌, 20 : 18.
- 5) 引間 功, 関口洋介 (1974) 第二大臼歯および第三大臼歯埋伏の1例. 口病誌, 41 : 158-160.
- 6) 西島克巳, 田村博宣, 高木 慎, 名越資幸, 矢尾尚武, 池田裕治, 下山一郎, 上田茂樹 (1981) 当教室における最近10年間の埋伏歯および埋伏過剰歯の臨床統計的観察. 日口外誌, 27 : 51.